

プロジェクト 55 b 進捗状況

大腸癌進行状況確認システムの開発

岡崎 明彦

1. はじめに

癌について関心が高いのは、湿潤性増殖の有無、異型度（癌細胞の悪性度）、分化度（癌細胞の成熟の度合い）および極性（細胞の秩序だった配列）などであるが、異型度、分化度および極性に関する明確な指標はなく、その決定には判定者の人為的誤差や測定誤差が含まれる^{1), 2)}。

そのような状況を鑑み、死亡率の上位を占めている大腸癌³⁾を対象として、正常組織と大腸癌組織の顕微鏡写真をもとに、大腸癌細胞の核クラスターと腺腔パターンのフラクタル次元と形状係数、核クラスターのサイズ分布指数とランク分布指数などを求め、分化度に関する判定基準を作成するとともに、大腸癌の進行状況を的確に判定できる操作性に優れた大腸癌進行状況確認システムの開発を行ってきた。

本プロジェクトでは、開発中のシステムの完成をめざして、機能の充実および操作性と信頼性の向上を図る。

2. 大腸癌進行状況確認システム

図1に大腸の構造を示した。内側の表面に粘膜層、その下に粘膜下層、さらにその下に筋肉層があり、漿膜で外側を覆っている。図2は分化度判定に用いる大腸組織（顕微鏡写真）の一例である。

大腸癌進行状況確認システムの構築は、分化度判定部、データベース部およびパターンマッチング処理部に分けて行う。

(1) 分化度判定部

- ・ 顕微鏡写真の取り込み
- ・ 画像の2値化
- ・ 腺腔、核クラスター、基底膜の抽出
- ・ 腺腔のフラクタル次元と形状係数の解析
- ・ 核クラスターのサイズ分布指数とランク分布指数の解析
- ・ 基底膜の形状係数の解析

- ・ 分化度の判定（マハラノビス距離に基づく重判別分析）
 - ・ 解析画像と解析結果の記録
- (2) データベース部
- ・ 分化度判定部のデータベース作成
 - ・ 分化度判定部の患者データの比較、類似データの抽出
- (3) パターンマッチング処理部
- ・ 癌細胞形状データのパターンマッチング
 - ・ 患者データの比較、類似データの抽出

システムの作成には Borland 社の C++Builder を使用している。

図3は、開発中の大腸癌進行状況確認システムにおいて2値化画像、ヒストグラム、フラクタル次元やランク分布指数などの解析結果を示す詳細画面である。

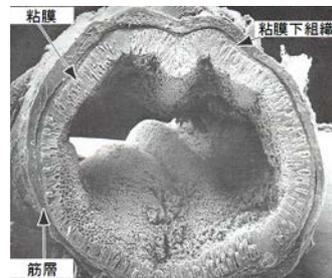


図1 大腸の構造

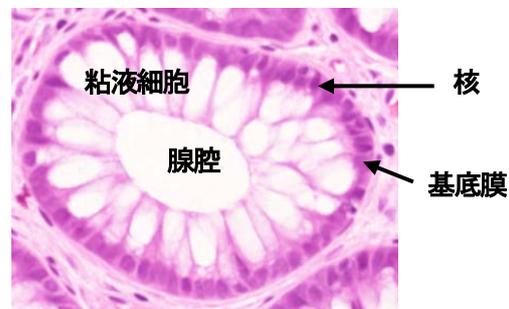


図2 正常な大腸粘膜組織

